

『立山黒部』世界ブランド化推進会議」第4回ワーキンググループ 議事録

日 時：平成29年12月19日（火）

10:00～12:00

場 所：県民会館401会議室

1 開会

2 挨拶（蔵堀観光・交通・地域振興局長）

3 報告事項

立山黒部アルペンルート及び黒部峡谷鉄道の営業結果の概要について、立山黒部貫光(株)及び黒部峡谷鉄道(株)より説明

【山田座長】

皆様おはようございます。座長の山田でございます。時間に限りがありますので、早速お手元の次第に沿って進めさせていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

今回の第4回ワーキンググループですが、検討に入る前に、今年の立山黒部アルペンルート、そして黒部峡谷鉄道の営業が先月、11月で終了していますので、この営業結果の概要につきましてお話を頂きたいと思っておりますので、まず立山黒部アルペンルートの状況について永崎委員からお願いいたします。

【立山黒部貫光(株) 永崎専務取締役営業推進部長】

立山黒部貫光の永崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、参考資料1からご説明させていただきます。この表につきましては、平成29年のアルペンルートの入込人員で、有賃という形で12月初旬に報道発表した数字と同じものです。

まず4月から6月までの分を見ていただきますと、一番右側、国内と海外のお客さま、それから貸切バス、ダム往復を含めて、4月は12万1,000名、対前年比108%と大きく伸びております。昨年も4月が大きく伸びて、今年も伸びているということで、ご承知のとおり、今年4月15日から半月間の営業でお客さまに非常にたくさん来ていただいています。7月の9万8,900名を抜いているということですので、大変混雑しているという状況がここでもお分かりいただけると思います。それで、5月も107%、6月も108%で、4月から6月につきましては38万8,400名と107%、伸びた昨年に対して2万6,500名プラスということで大きく伸びているわけです。

しかしながら、7月、8月を見ていただきますと、7月が91%、8月が92%ということで、長雨、台風等々の影響によりまして、27万1,000名ということで92%、昨年に対して2万4,600名落としているという形です。6月までに2万6,500名を稼いで、7月、8月に2万4,600名を吐き出しているという形で、大きく落ち込んでしまったのは非常に残念な結果です。

それから9月と10月を見ていただきますと、100%ずつということですが、9月の3連休につきまして台風18号、10月に入りましてからも21、22号ということで、アルペンルートのお客さまに非常に大きな影響がございました。団体のキャンセル数とすれば昨年の3倍のキャンセルを

いただいております、これもすごく影響、天候に対するリスクが高かったということを示しているものだと思います。

11月につきましては、実は雪が早くに降りまして、高原バスは13日間ストップいたしました。13日間ストップしているにもかかわらず、113%と大きく伸びていますので、11月のニーズは高くなってきているということがお分かりいただけると思います。9月、10月が100%で、昨年9月、10月は落としておりましたので、今年も数字を伸ばすことができなかった結果、92万9,000名ということで、101%のわずか7,400名のプラスに終わってしまったというのが今年の結果です。

めくっていただきまして、国内客と海外客の推移ですが、見てのとおり国内のお客様は、個人、団体と長きにわたって落ちてきているという状況が下の数字を見てもお分かりいただけるかと思います。逆に海外のお客様は、団体についても個人についても伸ばしてきているということで、数字の取り方はありますが、平成22年度の海外の個人が6,800名であったものに対して、29年度は6万9,000名と10倍になっているということです。伸びが非常に大きいということがお分かりいただけると思います。

もう1枚めくっていただきまして、右側の円グラフを見ていただきますと、今のところ、海外の国別のお客様につきましては台湾が圧倒的に多く、団体客が非常に多いことが左側の円グラフで分かると思います。その次は香港と韓国が並んでいるということです。今年については、訪日のお客さまで韓国が非常に大きく伸びておりまして、私どももそれに比例して韓国が大きく伸びてきているのも今年の特徴であろうと思います。

簡単ではございますが、私どもの報告とさせていただきます。

【山田座長】

永崎委員ありがとうございました。次に、黒部峡谷鉄道の状況につきまして、前山委員から説明をお願いいたします。

【黒部峡谷鉄道(株) 前山取締役技術部長】

黒部峡谷鉄道の前山でございます。参考資料2で説明いたします。私どもも12月初めにマスコミさん等に発表した資料の内容です。

ご覧のとおり、宇奈月駅の乗降人員を26年度から比較しておりますが、29年度は、対前年比で95.3%、27年度が、北陸新幹線の開通年ですが、近年ではここが最高で80万4,000人になっており、今年は67万7,320人に減っております。これはご承知のとおり、6月末から7月初めにかけての大雨の影響による猫又地区の浸水被害がございまして、約2週間全面運休もしくは部分運開で、これでかなりお客さん、団体の予約の方が減っております。これが7月の67.7%、あるいは8月の93.8%あたりに影響しているということです。8月には迷走いたしました台風5号の影響で全面運休が1日ございましたし、10月下旬も台風21号の影響で全面運休したりということで、8月、10月も前年を下回っている。9月と11月、特に11月は紅葉シーズンにはにぎわいましたけれども前年度を上回っている状況です。

このような中、真ん中の段ですが、訪日の旅客数（再掲）、内数にはなっておりますがトータルで129%、29%の増となっております。この国別の内訳を一番下段に示しておりますが、台湾からのお客様は若干減ったものの、立山黒部アルペンルートさんと一緒に韓国のお客様が

178.2%、それから東南アジアのタイのお客様が168.8%とかなり数が伸びております。絶対数としては5万6,000人ということで全体のお客様の1割にも満たないのですが、これからインバウンドの対応にもわれわれは力を入れて、伸ばしていくことを目標に掲げていきたいと思っております。簡単ではございますが以上です。

【山田座長】

前山委員ありがとうございました。今のお話を伺いますと、国内、海外問わず個人化、そして特に外国人の方の伸びというご説明があったかと思えます。

4 議事

(1) 各プロジェクトの検討状況等について

【山田座長】

それでは早速議事に入りますが、これからの各プロジェクトの検討につきましては、これまで同様にそれぞれのプロジェクトの事務局の方々からご説明いただきまして、皆様からご意見を頂戴するという進め方でまいりたいと思えます。

各プロジェクトにはいろいろな課題、問題等々ありますが、皆様にはぜひ建設的なご議論をお願いしたいと思います。私たちが目標としております「立山黒部」を世界ブランド化していくためには、ここにいらっしゃる皆様方の協力、取り組みがなくては成し得ません。そういった意味では、毎回皆様に申し上げておりますが、皆様それぞれの立場を代表してここに来られていることは重々承知しておりますが、ぜひ広い視野と前向きな建設的なご意見を頂戴したいと思いますので、よろしく申し上げます。

●02アルペンルート of 営業時間拡大

【山田座長】

それではまず「02アルペンルート of 営業時間拡大」についての説明を、事務局であります立山黒部貫光よりお願いいたします。

(資料に基づき、事務局 (立山黒部貫光株) より説明)

【山田座長】

それでは、事務局からの説明内容につきまして、早速皆様からご発言いただきたいと思います。ご意見のある方からよろしくようお願いいたします。

【渡辺副座長】

では早速ですが、大変前向きに天候という大きなリスクを抱えながら積極的にお仕事をされていると感じまして、最終的にはプラスマイナスあるという話でありましたが、素晴らしい結果ではないかとちょっと思いました。

今のご説明の中で特に私が非常に今後進めていただきたいと思うのが、最後のところにあり

ました混雑予想をベースにしながら見ていくというのは非常に観光の取り組みとしては科学的かつ前向きなやり方ですので、これが絶対うまくいくかということそうではないかと思うのですが、ぜひこの辺を実証的にお進めいただいて、飛行機、JR、それから高速道路とどういったリンクをするのか、やがてデータが出てくると思いますが、ぜひこれをお進めいただきたいと思います。

それと、いくつかお話があった中で、4月は半月にもかかわらず非常にいいデータで、2ページのところでは、1日の平均利用者数が4月が7,000で非常に多いということでした。その辺を考えると、4ページの取り組みのところ、運行開始時間を早めることをご検討されるということですが、これは大変重要といいますか、この前の視察のときにもいろいろお話を伺いまして、これ以上に間隔を狭めることは非常に難しいというお話を伺いました。そうしますと、やはりサプライを増やしていくということを前後にということだと思います。夜遅くというわけにはいきませんから、早めの便を増やしていくという取り組みは大変重要かと思います。それで30年度のところに、梅雨明けからお盆の中で繁忙期に早めるお考えとありました。これも大変重要なことだと思うのですが、4月のデータやゴールデンウィークの混雑具合を見ますと、できればゴールデンウィーク中も少しこういったことを、労務的な問題というのはもちろん社内のごもつともだと思っておりますが、調整いただきながら、ゴールデンウィーク期間中も少しご検討いただくと、いろいろ難しいと思うのですが、後々のためになるのではないかと思います。勝手なことを言いますがご検討いただければと思います。

【立山黒部貫光株 永崎専務取締役営業推進部長】

ありがとうございます。今、渡辺先生からご指摘いただきました4月ですが、私どもにおきまして、最大限の形の中でケーブルカーの運行をやっているところです。朝が早いと、暗いということと、台湾を中心とした団体のお客様がすごく多いということで、そのお客様が大変早い時間に出発するとなると旅館を何時に出なければいけないかということになってきますので、この時期につきましては、富山市内の旅館、ホテルだけではなくて、金沢市内のホテル、旅館、それから石川県内の温泉のホテル、旅館等々についてもお客様はいらっしゃいまして、結構立山駅に来るまで時間がかかっているという部分もございますので、そうすると4時、5時にお客様が出発というのちょっとしたなかなか難しい話ですので、結果的に富山側からの入込をやめて、大町側からの入込に変わってきているというのが今年ちょっと影響として出てきておまして、それで今年については4月から6月については特に大町入込が少し増えてきているという現状だろうと思います。

それから、ゴールデンウィーク中につきましては、今、富山県さんの方といろいろ協議しておまして、私どもがケーブルカーでお運びできないお客様のリクエストがあるわけですから、桂台等の供用開始につきましては、バスをケーブルの代行で使えるということがございますので、その台数はうんと増やしていきたいということも今一緒に協議しているところです。

【山田座長】

それでは、他の委員からご意見ございましたらお願いいたします。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

立山山荘協同組合の佐伯です。今年の例を説明いたしますと、非常に混雑した時期というのは、私の思いでは4月とゴールデンウィークが一番激しかったように思っています。その中の最たるものはお客様からの苦情です。毎年来ておられるガイドツアーをされている方々が、待ち時間が長くて、室堂に着いたときは大変遅くなってしまって予定の小屋まで行けない、ぎりぎりになってしまっているという状況が発生しています。それで、そのガイドたちいわく「もう来年からこのツアーを組まない。やらない。」という言い方もしておられます。

それはどういうことかと言いますと、今、ブランド化の会議などで何か重要なのか。通り抜けていくお客さんが重要かということがある。立山を利用してくれる大事なお客様が「もう来ない」という状態がいいのか。通り抜けていかれるお客様が優先されるのか。その辺はわれわれの方ではどうしようもないことなのですが、考えていただければと思います。以上です。

【山田座長】

ありがとうございました。他の委員からご意見いかがでしょうか。では森田委員お願いいたします。

【㈱エコロの森 森田代表取締役】

アルペンルートですが、やはりゴールデンウィークは非常に混んでいて、特に特定日はかなり混む。それで多分アルペンルートさんはかなり臨時便などを早期に出して、それでも間に合わないという状況を見ると、多分すごく早くからやっていて、特定日の分散化がすごく重要かと思いました。そういう意味では、一番最後の5ページにある、なるべく空いた日に誘導していくとか、ゴールデンウィークの中でも3日や4日に来させないとか、3日や4日は黙っていても来る日なので、待ち時間の工夫といったことも含めて。多分ゴールデンウィークはこれ以上便を増やすことは不可能ではないかという状況だと思うのです。

それで、今年の場合でいうと、多分8時か8時半に来てもう上がれない。それでは確かに佐伯さんがおっしゃるように上に行けない人が出てきてしまうということになるので、そこは個別に、特定日の課題解決は何か別に考えた方がいいのではないかと思います。

【山田座長】

ありがとうございます。皆様よろしいでしょうか。それではこのあたりで次のプロジェクトに進みたいと思います。

●06滞在プログラムの充実

【山田座長】

次に「06滞在プログラムの充実」について、こちらも立山黒部貫光から説明をお願いします。

(資料に基づき、事務局(立山黒部貫光㈱)より説明)

【山田座長】

ありがとうございました。このプロジェクトに関しましては「立山黒部」の世界ブランド化

では絶対に外せない非常に重要なポイントだと私も思っていて、ご説明を伺いますと非常に素晴らしい良い方向だと思います。

早速、委員からご意見をいただきたいのですが、森田委員いかがでしょうか。

【(株)エコロの森 森田代表取締役】

今までガイドツアーをちょっとやっていたけれども、大変苦勞してきたところもありますので、このような取り組みでもうちょっと幅広にいろいろな人がガイドツアーに参加するような仕組みができると立山黒部の魅力が伝わると。

最初に永崎さんがおっしゃったように、実際に自分たちは魅力を知っているようで本当の魅力というのがなかなかまだ伝わっていないかと、どうしても通り抜けて乗り物に乗っていくというイメージの方が強かったのではないかと思います。地元に住んでいると立山はすてきな所だと分かるのですが、そういった情報を発信して、この雄大な自然を大切にしていくという気持ちが多くの人に伝わっていくようなすてきな場所になってほしいと思います。

今後、このワーキンググループがちゃんと充実していくにはどうしたらいいかということも私も考えていきたいと思っています。ガイドが間に合わないということがなくなるのが一番ありがたいと思います。よろしくお願いします。

あと、実際、ボランティアガイドをやっている人がものすごく多いので、人材のベースはあると思うのですが、その人たちにきちんと業務として取り組んでレベルアップしていくということをここでできればいいと思っております。

【山田座長】

ありがとうございました。他の委員からご意見いかがでしょうか。中山委員からお願いいたします。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

環境省の中山でございます。ご承知のとおり、この事業については環境省も支援するという事で、満喫プロジェクトの展開プロジェクトとして採用しましたので、今後とも努めてまいりたいと思っております。その際に、ちょっと2、3気になっていること、お願いがあります。一つは、前回も申し上げたとおり、今、森田さんもお話しされたのですが、どうしてもガイドプログラムというのは、ガイドの個性などもさまざまにあるので、考えて作るというよりはそういう人たちの発意を上手に生かしていくというのが非常に重要なので、そこは心がけていただきたいと思っております。一方で、立山というところは、交通機関の話もあって非常に難しいところなので、むしろその辺でTKKさんがバックアップしていただくと非常に心強いと思っております。それで、初めてできるようなことがいっぱいあると思うのです。これが総論です。

個別の話として、一つは、今回、優先乗車といった話も出ていますが、山麓部に近い美女平などの活用を考えると、車の乗り入れも下の方については、できたら上の方もそうなのかもしれないですが、下の方については少し認めていく方向性などが少し必要かと思っております。

それから、資料の話になってくるのですが、知床のケースが出ていたのですが、これについて注意喚起をしておきますと、ここは利用調整地区でございますので、そこでの話で環境省が

直接タッチしている部分だと思うのですが、知床の場合はご承知のとおり、その外側で流氷ウォークをはじめとする相当多くのツアーが動いていて、その中でこの部分などがこんなことをやっているというものだと思います。質を高める仕掛けの勉強としては、屋久島も勉強していただいた方がいいかもしれません。屋久島の場合は、ガイド自らが組合をつくってスキルアップをしているというのがあって、私が小笠原のレンジャーをしているときもそこを手本にしようと思っていたのですが、そういった意味で非常に、救命救急講習を義務付けたりいろいろなことをしていて、お互いに助け合っているいろいろな事があるので、そういったこともちょっと勉強するといいかと思います。

もともと立山自体は山の上の山岳ガイドが非常に充実している所なので、そういうスキルがもう十分にある方が多いと思うのですが、こういうふうに体系化していけばいいということが屋久島を見るとすぐ分かると思います。

【山田座長】

ありがとうございました。副座長の渡辺さんからもよろしくお願いします。

【渡辺副座長】

根本的に、私も先ほど山田先生がおっしゃいましたように、この滞在プログラムの充実も非常に重要で大変意欲的に取り組まれていると思えました。その中でポータルサイトの立ち上げのところですが、これは大変素晴らしいことで、非常に重要なことだと思います。その中でも、4ページの右下の「サイト利用の流れ」の中に6番で「ツアー後体験談を書き込む」というのがあり、それでおそらく次のページに知床五湖のサイトの「ガイドツアーの高い満足度」というのでコメントをずっと並べている。これがすごく重要だと思うのです。

今さらながらですが、観光や旅行というのは、商品ではなくて目に見えないサービスでありますから、サービスというのはやはり口コミやブランドなどの目に見えない市場、お店に行くと触ってチェックすることができない商品ですから、口コミやブランドなどが大事だというのは言わずもがなののですが、その中で、ホテルやレストランのいわゆる一つ星とか五つ星とかがあると思うのですが、そういう形でフィードバックというのはある程度そういった星のような、ずばりではないのですがそういったものをこれから買おうとする人に情報提供する制度です。

それで、時々ちょっと誤解があるのですが、三つ星や五つ星ホテルなどがあって、では二つ星ホテルになったホテルは全然売り上げが減ってしまうのではないかと言う方がいらっしゃるのですが、これは実際、ご存じのとおりですが、ランクインすることによってトータルの売り上げは上がるのです。それは、いろいろなお客がおられるからということだと思うのですが、そういう意味で、こういったガイドの評価とか口コミがこれから買おうとする方に伝わるのはすごく大事なことで、繰り返しますが、トータルの、販売と言ったらいいかどうか分からないですが、増加につながるというのは定説ですので、これは大変重要なことで、ぜひこのポータルサイトの中の6番を重要視していただければと思います。よろしくお願いします。

【山田座長】

ありがとうございました。いかがでしょうか。中山委員。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

今、渡辺先生がおっしゃったとおり、非常に重要なことだと思います。ガイドの方々は個性で売るので、要するに普通の、みんな同じものでは駄目なのです。それで、その個性を売る場所としては、ポータルサイトであったり、小笠原の場合は非常に原始的で、船の上で、「小笠原丸」の中に掲示板があって張り付けてあるのです。そういったことをやるのですが、屋久島では「自然ガイドはあまりできないけど、体力は絶対あるので、絶対に縄文杉までおぶってでも連れていきます」と書いている人がいたりする。いろいろなタイプの人がいるのです。ですから、そういう個性を売り出せる方法は非常に重要だと思います。

あと、先ほど言い忘れましたが、どうやって売るかというのが非常に重要で、ツアーデスクを設けるといふことがあるのですが、これは現場のツアーデスクだけではなくて、卸しに、着地型の商品を旅行会社やいろいろな方々に卸すということについて対応するようにしていかななくてはならないかと思っています。小笠原でも、村が小笠原観光局を十数年前に、最近では多分日本中にいっぱいありますが、それを当時つくったり、私の友人が一念発起して卸しの会社をつくったりもしているので、そういった形で何かしらの結節点ができると多分非常に売りやすくなるのではないかと思っています。そういった役割を期待したいです。

【山田座長】

ありがとうございます。このあたりはより検討を深めたいところなのですが、ちょうど年明けまして2月にエコツーリズムの全国大会が屋久島で開催されますので、ぜひ関係の方々、こちらの知床の方も集まってまいりますから、よろしければこういったところに行っていただいて、勉強いただくのもいいのではないかと思っています。

私から1点だけ気になったのは、今ご説明いただいたことは、基本的には立山エリアでの取り組みなのですが、「立山黒部」の世界ブランド化ですので、こういった取り組みに関しましては、黒部エリアでも同様に進められてはいかかかと思うのですが、どうなのでしょう。黒部市さん、もしくは黒部峡谷鉄道などが中心になって推進ということはいかがでしょうか。

では、島田委員から一言お願いします。

【黒部市 島田商工観光課長】

この28のプロジェクトの中の一つに「宇奈月温泉街のにぎわい創出」というものも位置付けていただいております、今、県の方からもご支援いただいておりますので、そういった中で黒部峡谷鉄道さんとも連携しながら、何かこういったメニューも作っていただけるように頑張っていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

【山田座長】

ありがとうございます。時間がどんどん過ぎておりますので、よろしいですか。では事務局から。

【事務局】

推進会議で片山利奈委員からもぜひ今のお話を検討してほしいということが寄せられていま

す。片山利奈委員の方では、ラフティングやキャニオニングなどのツアーをされているのですが、一番困るのは天気が悪いときだそうです。200名とか150名などのツアーを受け入れられるときも結構あるそうなのですが、天気が悪くて中止のときにどうしようかと。場合によっては金沢に行きますと。でも宇奈月で泊まれる方はそのときの過ごし方がなくて困るものですから、天気の悪いときにも何かできるものを、片山さんもいろいろ考えていらっしゃるのですが、そういうところを地元の方ともアイデアを出し合っておっしゃっていましたので、ぜひその辺もご検討を一緒にしていけたらと思っております。

【山田座長】

ありがとうございました。そういった意味では、個別事業者の個々の取り組みだけではなくて、相当大きな連携が必要となってまいりますので、立山エリア、黒部エリアともどもリーダーシップを発揮されて、ぜひ全県的な取り組みにしていいただければと思います。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

立山黒部貫光さんには、先ほど早速1番目に現状報告したところを対処いただきましてありがとうございます。優先乗車ということをさせていただければ、これ以上のことはないと思います。

それで、もう一つ付け加えておきたいのは、立山ガイド協会、あるいは日本山岳ガイド協会ですか、大きな組織がございます。この11月に全国大会を富山で、この立山の地でやらせていただきました。その中でも、たくさんのプログラムを組んで内容の充実したものをやっておられたように私も参加して見ておりました。

それで、さらに付け加えておきたいのは、先ほども言いましたように、既に山のガイドがツアーを結構組んでおられて、人気結構あるのです。その辺も考慮して、その人たちを取り込みながら大事にしてやっていただきたいと思っております。特に、前にも一回話したような気がするのですが、「日本オートルート」という評価も受けております。立山一帯、あるいは有峰まで、特に雪のあるシーズンです。既にそういう評価を受けているということは、やはり大きな世界ブランドの中の一つではないかと。そういうものも大事にして育てあげていただければと思っております。

【山田座長】

ありがとうございました。オートルートはシャモニーからツェルマットです。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

時間がない中、申し訳ない。ちょっと逆のことを考えていて、地元ガイドを優先すべきだと思うのですよね。よそから来る人を優先する必要は全くなくて、地元の産業として育てていくために、地元のガイドを優先すべきだと思っております。だから、例えば千尋さんの芦峠の人たちなどが中心となって自然ガイドをやっていく。そのために、例えば優先乗車など、そういったことをやっていくべきで、ガイドであれば誰でもいいというものではない。あくまで立山のガイドの組織に入ってもらって、その中で立山に対して見返りのあるような人たちを中心に手厚く保護していくというのが本当ではないかと思っております。私個人の意見かもしれませんが。

【山田座長】

ありがとうございました。実はその話を一言しようと思っていました。フランスのシャモニーからスイスのツェルマットまでを通るヨーロッパのオートルートも、実際、地元ガイドが最優先です。

●07アルペンルートの早期開業

【山田座長】

では、次のプロジェクトに進みたいと思います。「07アルペンルートの早期開業」につきまして、立山黒部貫光から説明をお願いいたします。

(資料に基づき、事務局（立山黒部貫光株）及び富山県道路公社立山有料道路管理事務所より説明)

【山田座長】

ありがとうございました。それでは早速ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。まだご発言していらっしゃる委員の方からもご意見をいただきたいと思いますので、お願いいたします。

こちらのアルペンルート早期開業ということに関しまして、できるかできないかということではなくて、その判断をするためにもしっかりした多くのデータを集める調査が非常に必要だと思っていますので、これに関しましては、引き続き客観的なデータを集めていただいて、調査研究していただくということをお願いしたいと思います。

●12カルデラ体験学習会の周知強化等

【山田座長】

次のプロジェクトに進みたいと思います。「12カルデラ体験学習会の周知強化等」につきまして、こちらは県観光振興室から説明をお願いします。

(資料に基づき、事務局（富山県観光振興室）より説明)

【山田座長】

ありがとうございました。これは学習会という名前になっておりますが、カルデラ体験自体は、先ほどの滞在プログラムの充実の中でまさに非常に重要なサービスの一つだと私も認識しておりまして、しかも本来観光とはあまり関わっていない国の砂防事務所の方がこれだけ協力的にやっただけしているというのは本当に素晴らしいと感じております。

早速、委員の方々からご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。大坂委員から一言いただきたいと思います。

【国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所 大坂所長】

国土交通省でございます。日頃から事務局の県さんとよく調整させていただきながら、われわれの方は、先ほどごあいさつにもございましたように、本宮堰堤とカルデラの中にございます泥谷堰堤という二つの昭和初期にできた堰堤が重要文化財に追加登録されたということを受けまして、多くの方にこの砂防堰堤、砂防施設、設備の目的や効果を知っていただく機会を可能な限り多くつくっていきたいと思っております。また一方で、あくまで現在工事中という現場でもございますので、そういった現場管理、安全管理などにも配慮しながら、多くの方にご覧いただくというスタンスでこれからも臨んでいきたいと思っておりますのでございまして、県さんの方でこういうお取り組みをしていただけるというのは非常にありがたいと思っておりますので、今後とも引き続き、最大限協力をさせていただきたいと思っております。以上です。

【山田座長】

ありがとうございます。非常にうれしい言葉です。国の方から積極的に協力したいというお話がありました。

では他の委員からご意見いかがでしょうか。渡辺委員。

【渡辺副座長】

たびたびすみません。この体験学習会で、旅行会社から来たときは雨だったのですね、残念です。でもそれなりに感動してくださって、それから強化案のところで、旅行会社の方でも今度販売を検討される。これは大変ありがたいことかと思えます。ただ、素朴なところでちょっとどうなのかと思うのですが、これは毎金曜日だけなのですか。

【事務局】

バスコースはそうです。

【渡辺副座長】

昔、旅行で飯を食っていた人間として考えると、金曜日だけというと、ターゲットはシニア層、リタイア層、あるいはインバウンド。でもこれはインバウンドは関係なしにやっていることかと思うのですが、一人でも多くの方にこれを体験していただくとすると、やはり層を広げ、いろいろな方が参加できるような環境をつくるべきだと。言わずもがなだと思うのですが、要するに休日といった参加しやすい設定を、分かっておられると思うのですがご検討いただければと思います。いろいろな問題があつてこうなっているのだと思うのですが、より一層ご検討いただきたいと思います。週末に何とか少しでも、部分的にでもやっていただきたいと思いますという感じがします。

あと、お叱りを覚悟で言うのですが、旅行会社などとやるとすると、このツアーのネーミングはどうなのかと思うのですがいかがでしょうか。これは多分良し悪しだと思っておりますが、「学習会」という名前です。それなりのツアーのクオリティなり何なりを考えられると思うのですが、根本的に観光というのは一種の教育的効果があると考えれば、もうちょっとネーミングを、特に旅行会社の方を考えると、一考もありかと。ご異論はたくさんあると思っておりますが、こういう

意見もあるということでご理解いただければと思います。

【山田座長】

ありがとうございます。これに関してよろしいですか。

【国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所 大坂所長】

今、先生からお話でしたが、ちょっと補足させていただきますと、この体験学習会は金曜日だけやっているわけではなくて、水・木はトロッコによりましてカルデラに上がっていく体験学習会のコースとしてやっていきたい。それで、今の課題認識としましては、トロッココースというのはもう黙っていてもすぐ埋まる。大体平均倍率が2倍くらい、多いときには秋などで5倍くらいありますが、このバスコースが低いということで、それをてこ入れということで、お取り組みいただいているということです。

加えまして、火曜日、金曜日には事務所、行政関係者の受け入れということで、行政視察なども対応させていただいている。先生のお言葉からいうと「月曜日はどうなんだ」ということになりませんが、土日は工事がお休みですので、トロッコの現場の点検などをした上でということで月曜日はちょっとリスクが高い。落石や土砂崩れなどでそういった視察ができない可能性が高いということで、週の中で月曜日はちょっとご遠慮いただいているのですが、基本的には火曜日から金曜日までは、シーズンにもよりますが、何らかの方にカルデラをご覧いただいているという状況にあるということで、大体定員枠的には体験学習会でバスも含めると2,000人の応募、大体そういうオーダーです。行政視察は大体1,000人ぐらいのオーダーという感じでご覧いただいている。主体が違うのでちょっと分かりにくいかもしれませんが、大体そういうオーダーでうちの工事現場を見ていただいている状況です。

【渡辺副座長】

年に2、3回、週末にできないですか。

【国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所 大坂所長】

先ほども申しましたが、工事現場なのでそういう不特定多数の方が来るというのは、工事をやっているということは土砂崩れの危険があるからということがあるとは思いますが、ただ先ほど申しましたように、多くの方にご覧いただくとなると、誰が考えても平日よりは休日の方が来やすいというのは言わずもがなだと思いますので、そういったことができるかどうかも含めて考えさせていただければと思います。

【山田座長】

よろしいでしょうか。週末、休日を含めての運営に関しては、多分今の体制から若干民間事業者を入れていかなないとなかなか難しいところもあるのではないかと。料金的に、私が思うには少し参加費が安すぎると感じていました。今、体験ツアープログラムはもう少し相場的なものも上がってきていますし、週末だけでも森田さんのところが受ければという話もあるのかもしれませんが、そういった運営体制も含めていろいろと将来的には考えていただければと思います。

●21登山道の整備

【山田座長】

それでは、次のプロジェクトに進みたいと思います。「21登山道の整備」につきまして、県自然保護課から説明をお願いいたします。

(資料に基づき、事務局(富山県自然保護課)より説明)

【山田座長】

ありがとうございました。それでは、委員の皆さまからご意見、ご提言いただきたいと思います。では佐伯委員からお願いします。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

山荘協同組合の佐伯です。常日頃より登山道の整備を自然保護課さん、あるいは環境省さんの方でやっていただきまして、ありがとうございます。

ここに今抱えている範囲は、歩くアルペンルート、あるいは大日岳の方面ということで、割と入り口に近い所だと思うのです。よくよく皆様ご存じだとは思いますが、富山県のエリアは非常に広いので、三俣蓮華から白馬、旭岳ぐらいまでの後立山の稜線もございませし、ほとんど実は山小屋が建っている部分は富山県内ということになっております。そうでない小屋もあります、黒部峡谷の流域も全てそこでありませし、非常に広くなります。登山道もかなり多くあります。

それで、今までもアルペンルートの方でやっていただいているのですが、広いためになかなか手が届かない面もございませ。卑近な例を言いますと、われわれ山小屋の方で周辺の草刈りをしているのが実情です。大きな山小屋、人手を抱えている山小屋は大丈夫なのですが、一人しかいない山小屋もございませ。そうすると、なかなか一人では、客の面倒も見なければいけないのでできないということも結構あります。そういう面も含めまして、さらなる整備といひませか、そういう対策なども今後重々、環境省さんも自然保護課さんもお存じですので、引き続きこれからも取り組んでいただければとあえて説明しておきます。以上です。

【山田座長】

ありがとうございました。では中山委員の方からもお願いいたします。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

若干ネガティブな話をするのですが、大体来年度の予算が分かってきて、あまりいい話ではないのですが、一般会計予算自体は伸びていませが、今回の補正予算は景気対策ではなくて、防災関係などそういったものに重点があるので、あまりそこに昨年同様のお金が付いていないのです。それなりのお金をくれてはいるのですが、付いていない状況の中で、相当環境省の予算はこの辺のものは逼迫している状況です。それで、ここにも国の補助事業などを活用するとしてあるのですが、基本的には、富山県内での直轄事業については、環境省がお金を出して県

が施行していくものと、交付金により県が中心になってやっていただく事業があるのですが、いずれにせよ相当だんだん厳しくなっていくだろうという状況にあります。

県ではきちんと優先順位を付けて対応していただきたいというのと、ある程度シェアはあり、うちの事務所のシェアもそれなりに全国的には大きいのですが、そうはいっても厳しくなっていくのは間違いないので、優先順位を付けていていただきたいというのがあります。

うちとしては、目下、喫緊の課題としては、富山県内では雷鳥沢の野営場の火山噴火対策というのは非常に大きいと思っているので、そこは県に使っていただいているのですが、基本はうちの財産ですので、そういった対策をしていかなければいけないと思っているので、そういったこともあってなかなかすぐお金がかかりそうなのです。そういった中での話になってきますので、ちょっとネガティブな話ではあるのですが、いい話だと思うのですが、そういうバランスを考えながらやっていかざるを得ないという状況はご承知いただきたいと思っております。

【山田座長】

ありがとうございました。他の委員はよろしいでしょうか。

●26環境保全経費の受益者負担の在り方の検討

【山田座長】

次のプロジェクトに進みたいと思います。「26環境保全経費の受益者負担の在り方の検討」について、こちらも県から説明をお願いします。

(資料に基づき、事務局(富山県自然保護課)より説明)

【山田座長】

ありがとうございました。先ほどの登山道整備と同じなのですが、利用される方、そしてそれによって利益、メリットを得られる方というところでこの検討がなされているわけなのですが、この中で、ちょっと先ほどの話に少し戻ってしまうかもしれませんが、今申し上げた誰が使っているのかということと、誰が利益を得ているのかという問題は、特に登山道の整備に關しましてはいろいろ皆さんやっただいていいるところがあるのですが、現在の利用状況の説明をもう少し詳しく教えていただいでよろしいでしょうか。もし何か利用状況を分析されているようでしたら教えていただきたいのですが。

この後の議論も、誰が使っていて、誰が利益を得て、どう負担するのかという話ですが、このあたりを教えていただきたいと思ひます。誰がどう使っているかということ进行分析されているようであれば教えていただきたいということす。

【富山県自然保護課 武部課長】

今、手元にその辺の資料等がございません。

【山田座長】

利用状況の分析がされていないということでもよろしいですか。登山道に関して、どういう方が使っているかということは分かっていないということでしょうか。

【富山県自然保護課 武部課長】

分からないということだと思います。

【山田座長】

分かりました。では、佐伯委員。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

山小屋側の立場というか、日頃見ている状況から説明させていただきます。

一つは、山奥の完全な登山道と、それから室堂地区にある遊歩道というものがあります。山奥の、室堂地区以外の登山道から説明したいと思うのですが、それに関してはいろいろなところが整備しております。県の方でやられている所、環境省さんでやっている所、関西電力さんでやっている所、読売新聞社さんでやっている所もございます。それから管轄が全然ないというか分からない、昔からの踏み分け道がそのまま残っているという所もあります。それに関して、いろいろな予算も付けていただいて少しずつ直している現状ですが、先ほども言いましたように、非常に広範囲な所にたくさんありますので、なかなか追いついていないというのが現状かと思っております。誰が利用するかと言われると、受益者がどういう意味かちょっと私は分かりませんが、当然室堂地区以外の奥であればほとんど登山者であると理解していいのではないかと私は思っております。それに対する受益者と言われると、山小屋の方もそうかと思っております。

室堂地区に関して言えば遊歩道ですので、これはかなり県の方で整備されております。扱いがちょっと違うようですが、そういうことに関して言えば、日頃から大きな予算が結構かかっているのではないかと見ております。そこはメインにやはり観光客、もちろん登山者も通っているのですが、観光客の方が多いのかと思って眺めております。その範囲というのは、室堂ターミナルから雷鳥沢のテント場まで、先日見られたうちの小屋の辺りぐらいまでがその範囲と。前は地獄谷などもそうだったのですが、もう通れなくなっておりますので、大体そんなところかと思っております。

【山田座長】

ありがとうございました。どうしてもこの環境保全の経費に関しましては、否応なしに保全、保護のためのコストが必ずかかってくる。それをどこが負担するのかという議論ですので、まさに誰がどのように使っているのか、それによって誰が一体一番利益、メリットを受けているのかというところをはっきりしないとなかなか検討が進まないと思いますし、そういった部分では、これに関しては、座長の私から言うのもあれなのですが、少し検討が遅いように見えておりました、ぜひ持続可能な形で環境保全活動をするのでしたら、もう少しどんどん進めていただいても、検討していただいてもいいかと思うのですが、このあたりをもう少し、県の自然保護課の考えがあるようでしたらお聞かせいただきたいのですが。

【富山県自然保護課 武部課長】

例えば、入山料につきましては、平成15年にいろいろな研究会があつて、一度議論した経緯がございまして、その時点でもなかなか受益と負担の考えが詰めきれないということで、いわゆる協力金、トイレのトイレ賃もこういったことでいったん議論が終わっておりまして、近県では、例えば長野県さんもこの入山料についてご検討された。近年、25年にもあるのですが、その経過を拝見しておりますと、これから観光アップを図ろうとしている中、なかなか入山料の徴収に踏み切れないということで、当面は、それは長期的課題として、短期的には協力金という議論に終わったと認識しておりまして、なかなか受益と予算の関係というのは簡単に詰めきれないところがあるのかなという認識でおります。

【山田座長】

ありがとうございます。そういった意味では、アルペンルート of 早期開業や自然環境の調査研究も同じですが、こういった利用状況も含めての調査研究は必要だと私は認識しております。

私が話してしまいましたが、他の委員の方々からこちらのプロジェクトに関しましてご意見いただきたいと思ひます。では中山委員お願いいたします。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

先ほどの整備費の話だけではなくて、維持管理費もあまりないです。それで、お金があまりなかったりというのもあると、山小屋やいろいろなところに負担をお願いしているのが現状だと思います。ちなみにTKKさんは、立山黒部環境保全協会においくぐらい出されていますか。多分これはすごく会計が入り組んでいるのですよね。

【立山黒部貫光(株) 永崎専務取締役営業推進部長】

今ちょっと分からないです。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

もともと環境省の少額補助事業で清掃補助金というものがあつて、環境省が50万出して、県が50万出して、町が50万出して、地元が100万ぐらい出すという感じのお金だったのです。それから始まっていると思うのですが、そういったもう30年以上前からある制度が基になっていて、それにこれを見るとキャンプ場の維持管理やいろいろなものが入り込んでいて大きなお金になっていると思うのですが、古い制度をそのままずっと運用しているわけです。正直、なかなか厳しくなっているのは間違いないのです。それはどこでもそうなのです。当たり前の話なのですが、年間100万人近いお客さんが入ってきて、自然を消費しながら楽しんでいただいているという状況の中で、その受益者負担は、単純に使っているからというだけではなくて、いろいろな形でやはりお願いするべきだと思います。

例えば、来ている人たちがいくぐらい払った方がいいのかというのはあると思うのですが、富士山の話が最後の方に出てきますが、富士山でもいろいろ調べてみて、5千円から1万円取らないとお客さんは減らないとまで言われている状態に北大の先生が調査した結果はそうなっているのです。そういった状況を考えると、立山でも似たり寄ったりで、それなりの余力はあ

るはずなのです。それを集めるということをしていないだけの話で、はっきり言って、こういう言い方は申し訳ないと思いますが、これはサボタージュでしかないと思います。厳しい言い方になりますが、先ほど山田さんがおっしゃったとおりです。開業の場合はどうしていこうという話で科学的にきちんと調べていくわけなのですが、これ自体非常に大変な話なので簡単に一朝一夕にはいかないのは分かるのですが、きちんと整理をして調べることは調べて、そしてどうしていくかということを考えるべきで、非常にお手盛りとしか言いようがなくでどうしようもないです。

環境省としては、「地域自然資産法」という法律を作って、利用料、入域料を取ることが法律的に自治体ができるように制度整備がされている。実際にやろうとすると大変難しいと思うのですが、そういう法整備がされている状況なので、ちゃんとそこは見直しながら考えるべきではないかと思います。

【山田座長】

ありがとうございます。少し厳しい意見が出ましたが、では佐伯委員からお願いいたします。

【立山山荘協同組合 佐伯理事長】

いわゆる環境保全を図りましょう、受益者負担ということで、理念は良いのかなと思って私は眺めております。特に立山は、環境保全は進んでいるのではないかと考えております。それに携わる方々は結構たくさんおられるように思います。他の地区のことは分かりませんが、雷鳥研究会しかり、それから雪崩の方もそうですし、それから植生の方もやっておられます。たくさんやっておられるのですが、それを生かすべく、そういう施設が足りない、あるいは統一した取り組みが私は足りないのではないかと考えて眺めております。それと、先ほど言いました登山道整備等のための予算が必要ということであれば、ある意味ではこの受益者負担の中からそういうものを持っていくというのは、総論的には賛成。

ただ、なかなかそこを実質的に持っていけるのか、それから割り振りがきちんとできるのかというところがあって、これは難しい話ではないかと考えて眺めております。特に、この話を進めていった場合にどういうことになるかといいますと、現に一つ、宿泊施設として高原ホテルが内々に、裏の方ですが話題になっております。これをどういう方面で利用できるのか。もともと教職員組合、教職員のための保養の場として造られたというのがあるはずですが、それが、本来の理念が忘れられてしまって、他の形で利用しようというような話にすり替えられてしまっている。であるならば、ここを環境保全の基地にしてはどうかという考え方は非常に大事なのではないのかと私は思います。

特にブランド化へ持っていかれる場合は、前回の会議でも出ましたが、もう既に山の上ではそんなに大きな上質なものはスイスでもないのだと。せいぜい2～3万円。ホテル立山さんとほとんど同じようなもの、あるいはもっとホテル立山さんの方が上なのではないかと思うような施設しかないような状況の中で、これ以上増やしたってしょうがないのではないかとわれわれは思いますので、であるならば、ここに環境保全が今うたわれているわけですから、これはブランド化の中に特にこれから立山をブランド化するというの上にはやはりそういう基礎データ、あるいは研究者の方、あるいは環境保全を進めていくというスタンスはかなり必要なことではないのかと思います。だから、そういうスタンスで見れば、こういう所にそういうも

のを持ってくる、あるいは予算がなければこの受益者負担というような考え方も出てくるのではないかと思って私は見えています。

これはまだまだ私の構想にしかすぎませんので、いずれにしろ、そういう大事な施設があるわけですから、そういうものを、われわれ昔から住んでいますので、そういうところにぜひとも相談していただきたい。こういう使い方もあるんじゃないのかなと、受益者負担も絡めまして提案だけさせていただきます。以上です。

【富山県観光・交通・地域振興局 蔵堀局長】

今の議論は、自然環境の保全ということと、宿泊施設の整備、それと受益者負担と三つの内容が混在しておりますので、それを一緒にくたに議論というのはなかなかできないと思っています。

宿泊施設については、宿泊施設の必要性、どういった必要があるのかないのか、それはしっかり検討したいと思っています。それから、自然環境の保全につきましても、今ほど足りない施設があるというご意見もございました。そこは私ども県としても、いろいろな皆さんのご意見を聞いて、どういった施設がどの場所に必要なのか、それは十分検討が必要だと思っています。

受益者負担についてですが、これはやはりその利用者、受益者が誰なのか、どのくらいの方がいらっしゃるのか、そこをまずしっかり見極めるということも必要だと思っています。その上で、受益者の方にご負担をお願いするのかしないのか、するとしてもいくらくらいお願いするのか、さらにはそのお金は何に使うのかといった議論はかなり丁寧にやらないと非常に、急いでやるという話ではないとは思っていますが、ブランド化を進める、立山黒部の自然環境をしっかりと残すといった上では、少なくとも議論を重ねることは必要だと思っていますので、これは今後も皆さんからご意見を頂いて議論を進めたいと思っています。

先ほども、中山所長さんからなかなか努力が足りないのではないかという厳しいご指摘もいただきましたので、県としてもその利用の実態と、それからどういった対応が可能なのか、これからしっかり検討したいと思っていますので、よろしくをお願いします。

【環境省長野自然環境事務所 中山所長】

今お話があったとおりなのですが、満喫プロジェクトの他の地域の話をしみますと、お客様に来ていただくときにはやはりそれなりのスペックを上げていく必要がどうしてもあるので、それは施設というわけではなくて、景観などを含めて、お金はたくさんかかるのですよね、きっと。それでもともとお金がないという話の中でやっていますから、なかなか素晴らしいことはできないというのもあるので、きちんと長い目で見ると、ちゃんとお金も確保しながらやるのは当然だという議論を国ではしています。

それで、ちょっと話がそれるのですが、例えば、長野県さんなどでは企業からの、企業版のふるさと納税を活用するなどといった努力もしていて、1種類ではないと思うのですよ。受益者から直接負担をいただくということはやった方がいいと思うのですが、それだけではなくて、いろいろな方法があるのでそこをいろいろ考えていくのは重要かと思っておりますので、それも一緒に言わせていただきます。

【山田座長】

ありがとうございます。よろしいでしょうか。では小野委員からお願いいたします。

【立山町商工観光課 小野課長】

立山町の小野です。誰が受益を受けているのかというところで、アルペンルートに行かれる方というのはいろいろな手段を使って行かれると思います。立山黒部貫光さんの交通機関を使って行かれる方、あるいはバスで直接桂台から行かれる方、あるいは称名滝の駐車場に駐車をして、八郎坂を上って歩くアルペンルート、登山道を使われる方ですとか、あるいは材木坂を使って行かれる方など、いろいろな受益を受けていらっしゃる方がいるので、この際、幅広にそういう調査をしていただいて分析した方がいいのかと思います。

【山田座長】

ありがとうございました。こちらもいろいろな検討が必要だと思います。どんどん時間も迫ってまいりましたが、まだご発言いただいていない委員もいらっしゃいます。ご意見、全体を通して一言でも。

【関西電力(株)北陸支社 二階堂総務部長】

二階堂でございます。今日ご議論いただいております中身におきまして、やはりアルペンルート、弊社も扇沢からダムまでバスを運行しておりますので、アルペンルートの関係でいろいろと今までも連携させていただいておりますが、まさに滞在プログラムの充実、通過型ではなくて滞在するというところをしっかりと固めていくところが大事ではないかと痛感いたしましたし、われわれとしても、100万人規模のこのアルペンルートをしっかりと実のあるものにしていくために、今後も実績、連携を議論させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【山田座長】

ありがとうございました。最後に、報告事項が全て終わりましたので、全体を通して、渡辺副座長からまとめて一言いただけますでしょうか。

【渡辺副座長】

私の後にまた山田先生がまとめてくださいますが、手短に少しだけお話しします。

最後の、今の受益者負担の話のところの一つだけ言っておきたいのですが、皆さんご存じのとおり、ちょっとジャンルが違いますが、いわゆる出国税が最近話題になりました。国際旅客何とか税と変わって1人1,000円。あれに関して一応議論はあったのですが、結果的にはもう払う側からしてみれば、大手旅行会社も、それから日本旅行業協会も、いわゆる使途がはっきりしているのであれば、観光促進に使ってくれるのであれば、まあ1,000円ぐらい、1,000円ぐらいとは言っていないですが、いいよということですよね。ですので、さっきの割り振りなどその辺私ちょっとよく分かりませんが、払う側から見ると、ここにあるような額であるならば、これは大いに払うべきであると思いますし、そこに異論はほぼ出ないと思います。今の世の中の観光の状況からすると。

ですので、やはり何に使うかということは何らかの形でパブリサイズしていくということが大事だと思うのですが、それが大前提なのですけれども、ここにたまたま入園料など他のケースが出ているのですが、私はこれに下手すればゼロ1個付けてもいいのではないかと、極端ですが、観光促進の考え方からするとそんな気がしています。

全体的なところでも、今日いろいろお話を聞いていて思ったことが二つあるのですが、一つが「立山黒部」のブランド化、ここをさらに世界的な観光地にしていこう、ブランド化していこうというのがこの会のテーマなのですよね。それで、富山県、あるいは日本の観光地の中でも、やはりここというのはもう本当にトップレベルで、最近発表された日本交通公社の中でもトップランクになっているわけです。そういうところのさらなる促進策を考えますと、釈迦に説法の方も多いのですが、これはもうさまざまな層の人たちをさらに取り込むための努力をしなければ駄目だと思うのです。これは新たに全くこれから観光を立ち上げようという地域であるならば、例えば、シニアにターゲティングしようなり、昔でいうならばハネムーンにターゲティングしようなりという観光手法があると思うのですが、ここはそういう意味ではオールラウンドというか、さまざまところでやっていかなければいけない。

だから、極端な話、超富裕層も取り込まなければいけないし、それからバックパッカーも取り込まなければいけない。経済用語で前から言っていますが、価格差別という言葉があります。同じものをいろいろな価格で売っていくとトータルで売上げが伸びるという考え方がありますよね。確か価格差別と言ったと思うのですが、それと同じです。だから、やはりここはさまざまな議論があると思うのですが、いろいろな層を取り込める策を考えていくべきかと。それが最終的にはこのブランド化の効果が最大限になるのではないかと聞いていて思いました。

それからもう一つ、これも皆さん分かっているらっしゃると思うのですが、山田先生が時々おっしゃるシャワー効果というものがあります。マーケティング、経済というのは、トップランクにあるものがよりさらに促進、強くなると、その下、いろいろな意味があるのですが、価格が安いというところもあるし、地理的な下もあると思うのですが、そういうところの売上げも広がっていくというところがあります。ですので、そういう意味では富山県の観光促進を見ると、やはり立山黒部、ここがさらにさらに強力になることによって、利益を得るのはここだけではないのです。富山県全体の観光になるでしょうし、恐らく北陸の観光という意味では経済効果が多いと思うのですが、そういったところのメリットにも実はつながっているという意識が多分このミーティングには必要なのではないかと。皆さん思っているらっしゃらないということではなく、そんなような気がしました。

ですので、そういう意味では、非常に重要なテーマであり、ここでの決定の一つが多くの影響を与えることなのではないかと今日思った次第です。長くなりました。申し訳ありません。

【山田座長】

ありがとうございました。いつも渡辺副座長から非常にうまくまとめていただいています。時間がないので、私からは一言だけ。

今回も各委員の方々からさまざまなご意見をいただきまして、ご提言もあり、非常にありがたいと思っております。あくまでも私たちのワーキンググループというのは、このブランド化を推進するというのが大きな目的でございまして、ブランドを構成するものというのは、これは一つはイメージになります。ただ、そのイメージというものは、形があってないものでござ

いまして、これを支えるのはまさに立山黒部の価値です。だから、価値を上げ続ける、創造するだけではなくて、価値の向上そのものがないとイメージも上がっていきません。よく宣伝広告でも、イメージが先行してしまって中身が何もない、それを担保するものがないともちろん短命で終わります。そういった部分では、この今回も皆様からいただきましたこういった議論をさらに深めながら、特に今回は滞在プログラムであったり、もしくは営業そのものの話、そしてそういったフィールドをどう守っていくのかということでは、これまでのこの推進会議のワーキングの中でどんどん話が深くなって議論されているものと私の方は認識しております。

今日も全ての委員の方々からもっとたくさんご意見をいただきましたかったところですが、後ほどでも結構ですので、ご意見がありましたら事務局の方に上げていただければありがたいと思います。

最後に、毎回同じことを言うようですが、この「立山黒部」の世界ブランド化というのは誰のためか。先ほど受益者負担は誰が使って、どこが利益を上げているなどいう話をしましたが、この世界ブランド化というのは、誰のためなのかと考えると、もちろん富山県民のためです。富山県民の今後の将来、そして社会の豊かさに寄与できるようなブランド化をぜひ進めていきたいと思ひますし、次回以降もそういったことを念頭、前提に、皆様にはぜひご議論いただきたいと思ひます。

ということで、時間が参りましたので意見交換はここまでとさせていただきます。先ほどから申し上げましたとおり、皆様から本当にたくさん、本当はもっといただきたいところがありました。いただいたご意見に関しましては十分参考にさせていただきます。今後検討を進めていただきたいと思ひます。ぜひ引き続きよろしくお願ひいたします。

それでは進行を事務局にお返しします。よろしくお願ひいたします。

以上